

校内研修計画

塩山北小学校

1 学校課題

塩山北小学校は、商業地と住宅地と農地が混在する場所に位置している。昔から、本地区に住んでいる家庭が多く、学校教育への理解と関心が高い。

本校では、昨年度、文部科学省より「スーパー食育スクール事業」実施校の指定を受け「食と学力」をテーマに理論研究や授業実践、体験活動を積み重ねてきた。「自産自消」による食育プログラムを効果的に行うことにより、児童の学校での生活習慣や学習意欲、協働意識が向上し、学力を支える基盤としての意欲的な学習集団の育成を図ることができた。そのため、学校生活に対してもほとんどの子どもが楽しいと感じている。Q-U検査においても全クラスが親和的な学級と判断され、学習意欲でも全国平均を大きく上回ることができた。

しかし、全国学力・学習状況調査や県学力把握調査の結果からは論理的文章や説明文の読解、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることなどについて課題が見られ、基礎的基本的な知識・技能の習得と共にそれを活用できる思考力・判断力・表現力の育成が必要であることが明らかになった。

2 研究主題

「主体的に学び、考える児童の育成」
～アクティブ・ラーニングの視点にたった算数科における授業改善を通して～

3 主題設定の理由

(1) 社会的な課題から

文部科学省は、平成28年の「審議のまとめ」、12月の中央教育審議会答申および平成29年2月の公表において、次期学習指導要領の改訂の基本方針を「将来の予測が難しい社会の中でも伝統や文化に立脚した広い視野をもち、志高く未来をつくり出していくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育をめざす」としている。

特に、子供たちが「どのように学ぶか」に着目して、学びの質を高めていくには、学びの本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指したアクティブ・ラーニングの視点からの「授業改善の取組を活性化していくことが重要である」としている。今回の改訂が目指すのは、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことであると考えられる。

(2) 学校教育の具現化から

本校の教育目標は、『心豊かで生きる力のある子ども』である。具体的には、

- ・思いやりのある心豊かな子ども
- ・自分で考え主体的に判断して行動できる子ども
- ・体を鍛え生命を大切にする子ども

という3つの姿を目指している。さらにそれを受けて、「確かな学力」向上のため、教育活動全体を通して、主体的・協働的に学ぶことにより、知識・技能を活用する力を育成することを重点目標としている。

学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることをねらい、本主題を設定した。

(3) これまでの研究から

27年度は、山梨県教育委員会より、学校における食育推進事業の実施校の指定を受け、「食と健康」をテーマに研究に取り組んできた。そして、昨年度は、文部科学省より「スーパー食育スクール事業」実施校の指定を受け、「意欲的な学習集団を育成する効果的な食育プログラムの開発」を研究主題とし「食と学力」をテーマに研究に取り組んだ。

学校が家庭・地域と連携し、教育活動全体を通して、食に関する体験的な活動を取り入れた研究実践を行うことにより、児童の学習意欲・探求心・協働意識などを向上させ、学力を支える基盤としての意欲的な学習集団の育成を図ることができた。今年度は、その学習意欲を一人一人の資質・能力の育成につなげていけるよう、授業の工夫・改善に取り組みたいと考える。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携を図りながら、「主体的に学び、考える児童の育成」に向け研究を進めていきたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- 算数科の特性を生かした「主体的・対話的・深い学び」の実現のための理論研究
- 授業案の作成，検討及び授業実施
- Q-U調査の実施2回（5月・10月）とK13法による結果分析
- 家庭学習と授業を有機的に結びつける取組

(2) 研究の方法

- 講師を招聘しての学習会
- ワークショップ型，授業研究会（2回）
- 一人一実践の取り組み
- Q-U結果を分析し，アタックシートを活用した学級集団づくり
- 「家庭学習の手引き」「家庭教育・子育てQ&A」を活用した効果的な家庭学習の提案

年間校内研修計画

研究主任 鈴木百合子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C 要請
①本年度研究の方向性と概要	算数科	研究主任	全体		
②本年度校内研究の計画と研究の組織づくり		研究主任	全体		
③部会研究の方向・授業内容について		部会長	部会		
◇甲州市「確かな学力プロジェクト」講演会	学級集団づくり				
④K-13によるQ-Uの結果分析	学級集団づくり	研究主任	部会		
⑤学習会（算数科におけるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善）	算数科	研究主任	全体		○
◇甲州市「確かな学力プロジェクト」講演会	授業づくり	部会長			
⑥部会研究 効果的な家庭学習の進め方について		部会長	部会		
⑦特別支援教育研修会・教育課程環流報告会	特別支援	特別支援	全体		○
⑧部会研究 授業案づくり	算数科	部会長	部会		
⑨授業案検討会Ⅰ		部会長	全体		
⑩部会研究 授業案づくり		部会長	部会		
⑪授業実践提案Ⅰ		授業者	4年	10月	○
◇甲州市「確かな学力プロジェクト」講演会	授業づくり				
⑫授業案検討会Ⅱ	算数科	部会長	全体		
⑬Q-Uの結果分析	学級集団づくり	研究主任	部会		
⑭授業実践提案Ⅱ	算数科	授業者	5年	11月	○
◇甲州市「確かな学力プロジェクト」講演会	授業づくり				
⑮部会研究のまとめ	算数科	部会長	部会		
⑯本年度研究の成果と課題		研究主任	全体		
◇甲州市「確かな学力プロジェクト」講演会	学級集団づくり		部会		
⑰本年度研究の成果と課題	算数科	研究主任	全体		
⑱研究紀要作成		研究主任	全体		
⑲来年度の研究に向けて		研究主任	全体		

